

会 議 録 (要旨)

1 会 議 名

第2回北九州市公共施設マネジメントモデルプロジェクト推進懇話会

2 開催日時

平成29年2月3日(金) 14時00分 ~ 16時00分

3 開催場所

門司生涯学習センター 2階 第1研修室(北九州市門司区栄町3番7号)

4 参 加 者

【構成員〔学識・有識者〕】(50音順、敬称略)

北九州市立大学 国際環境工学部 准教授 赤川 貴雄

北九州市立大学 地域戦略研究所 副所長・教授 内田 晃

元藤松市民センター 館長 内山 信子

株式会社リバー不動産 代表取締役社長 河邊 政恵

【構成員〔団体を代表する者〕】(50音順、敬称略)

門司区女性団体連絡会議 会長 岡本 三津子

門司区スポーツ推進委員協議会 会長 小北 博

門司区まちづくり21世紀の会 理事 城水 悦子

北九州商工会議所 門司地区議員 平野 健二

門司区文化団体連合会 副会長 藤扇 菜玉

門司区自治総連合会 会長 古川 充教

【事務局】

北九州市企画調整局長 西田 幸生

北九州市企画調整局都市マネジメント政策部

拠点開発担当部長 千々和 秀二

北九州市企画調整局都市マネジメント政策部

モデルプロジェクト担当課長 木原 義幸

5 議 題

- ・前回の主な意見について
- ・門司港地域の現在の検討状況及び今後の検討事項について
- ・大里地域の現在の検討状況及び今後の検討事項について

6 主な発言要旨

(1) 前回の主な意見について

- 大里地域の複合公共施設に関する意見で、「民間企業と競合しないように」というのは、民間企業で果たせない役割は何か、役割の分担を整理し、市の役割を導きだそうという意見だったと思う。また、居住ゾーンの「ペットや園芸の場とする」という意見は、居住ゾーンに限らず、外から来る人にとっての機能としてもあった方が良くと思う。

(2) 門司港地域の検討状況及び今後の検討事項について

- 事業主の公募や民間売却を行う場合、応募者の能力や価格面で競走が生じる方法・条件はいかなるものであるか考える必要がある。最近関わった公募案件では応募者が1グループのみであった。このような状態では、競争原理が働かないので問題があると考えられる。公募する場合は、方法と条件をきっちり精査して、公平な競争が行えるような要項を作る必要があるのではないかと考えます。そのためにも、公共サイド・市民の利益を最大化するためにはどのような条件設定を行い、どのような要件を盛り込むべきか精査の上、公平で、応募者が頑張れる公募の方法を工夫するべきだと思います。
- 複合公共施設の候補地は東側（駅市場跡地）にした方が良くと思う。門司港駅を拠点に、東側と西側（港湾関連用地）を見た時に、距離が同じでも見た時の感じとしては東側の方がとても近い気がします。また、棧橋通りの方から見た時、大きな建物が建てば、人があっと驚き、何が建っているのだろうか、人の目を引くのではないかと思います。
- 市民利用施設の集約について、門司市民会館等は将来計画では半分程度になるように感じるが、市民会館が半分になっても大丈夫か、少し小さいのではないだろうかと思い、そこが懸念されます。
- 民間事業者ヒアリングの中で、「集約化による市民利用の賑わいは創出できて」とありますが、私は集約化というのはコストダウンになるが、それ自体が賑わいに結びつかないと思います。賑わいというのは、魅力あるものが集まることであって、集約化ではありません。
- 観光要素、観光客向けという言葉が出ていますが、観光というのは非日常で、お客様が多い日と、全く閑散としている日が出てきます。一方、スーパーマーケットやドラッグストア、市役所等は完全に日常的なものとなります。こちらは、デイリーの物が求められることとなります。日常の側の立場に立つと、非日常側の非常に波が大きいものをパートナーにするのは、効率がすごく悪くなります。この建物はそんなに大きいものではないので、どちらかに特化した方が運営効率が良くなると思います。

- 施設の使い勝手として「市民が利用しやすい施設」とありますが、一体何を意味するのでしょうか。例えば「各サービス毎にどんな方が何回利用しているのか」という資料があれば教えて頂きたい。「利用しやすい」というのは、度々訪れるものは1階なりに集約されているということで、めったに用事がないものは上の方で全然構わないのです。銀行でも、預金だとか送金だとか、一般生活者が対応するいわゆるテラ部門というのは、窓口として集約されているわけで、～部とか～課とか～局等という問題ではなく、「市民がふれあう窓口が集約されている」というのが使いやすいものということです。
- 区役所機能の面積がこのくらいなのかなというのが書いてありますが、図面の話ではなく、市民が足しげくアクセスするサービスは何であって、そのために必要な面積がこうだから1階にしよう、その他の機能は全然頻度もなく、元気な人が対象となるならば上の階で良いのではないかと、というふうに考えていくのではないかと思います。
- 駅東側の候補地に建てるのは、かなりの費用がかかると思います。それであれば、今、大里地区も人口が増えています。旧門司競輪場跡に施設を移設したらどうかという考えを持っております。大里地区の方々はそういう意見を持っていますが、門司港の方に整備することは決定しているのでしょうか。まだ決定してないですか。
 (事務局)門司港地域には、税関や警察署等の行政機関で集まっており、区役所とそれらの機関との連携を考え、門司港地域で機能は存続したいと考えています。
- 市民利用施設が3600㎡では狭いという思いもありますが、当初の目的、今の北九州市の実態、全国的にもコンパクトモールに変わってきているということを感じています。ただ、気になる事として、生涯学習センター、勤労青少年ホームと3施設が一緒になった時に、果たしてその利用状況が収まるものか心配します。今、日曜日に利用ができるところが生涯学習センターだけということで、日曜日の予約がなかなか取れない状況です。そういう現状から、この3施設が入ることになる市民利用施設にはちょっと先行き不安があります。以前の懇話会でも意見としてありましたが、旧JR本社ビルを利用することで、少しゆとりができるのかなと思います。
- 今後の設計段階の話だと思いますが、立面イメージ図を見ると、多目的ホールがこの位置にあるのはちょっと不安に思います。楽器や大道具の搬入という場合に、搬入口は何処になるのか。ウェルとばたでは大道具を搬入する時にセリという舞台装置を利用して大きい物の上げ下ろしができます。その点、今の図面からは不可能かなという感じがしています。今後そのような面に考慮して頂ければと思います。
- 今後、全体的な規模の検討については、公共施設の老朽化や新たに整備する物が

40年後・50年後にどうなるかということと、人口減少の色んなところでデータが出ていますが、その両方を見ながらコンパクトにしていく必要があると思います。例えば、区役所の共用部分の縮減面積が300㎡と書いてありますが、もっと工夫できる余地があるのではないかと思います。複合的に使うということで、規模の縮小というのを考えた方が良いのではないかと思います。

- 候補地は門司港レトロ地区の中心にあって、景観の重要整備地区に指定されています。民間の建物についても、高さや色彩等に色々なお願いをしている状況なので、公共の施設については尚更にそういう点を遵守するのは勿論、考え方として先進的な建物を作って頂きたいと思います。
- アクセスの問題はどちらの候補地になったとしても重要です。高齢の方等がバスを降りてどこまで歩いて行くのか、というのは重要なテーマになると思う。門司港駅までのバスは少ないですし、棧橋通りの方を見ても問題として出てくるだろうと思います。防災上も、交通機関が使えない時に、駅西側まで歩いて、或いは走って行くのは想像するだけで大変つらいだろうと感じます。
- 今、2つの候補地に絞って検討という段階に入っているわけですが、本当にこの2つの候補地に絞るべきなのか、今一度考える必要があるのではと思っています。例えば、旧門司税務署の建物が現在使われていません。すぐ横の区役所別館の敷地と合わせた面積で、国から土地を譲渡してもらうことが計画できないのか。門司税務署跡であれば大里から来る方にとってアクセスも良いのではないかと考えます。現行の2つの案だと、どちらにしても門司港駅側へ行かないといけません。検討は可能なのか、今からでも遅くないのであれば、考える意味はあるのではないかと思います。
- 複合公共施設のイメージ図ですが、色々な施設の集約ということが分かります。私は、北九州市になってからの生まれですが、未だに、旧5都市の意識なり感覚なりが市民にあり、それは若い世代にも浸透していることを感じます。各区ごとに同じ施設が必要なのでしょうか。ホールをお使いの方には申し訳ないのですが、今回の計画の中で、門司市民会館と同じ規模のホールが門司区に本当に必要なかということも、勇気をもって考えるべきではないでしょうか。将来、人口が減少していく中、後々の世代に対して、私たちは何を残したのかという責任があります。単独空間のホールではなく、商業施設と一体化したオープンホールみたいなもので、市民の憩いの場や商業施設を兼ねた様々な催しができるようなスペースにすれば、そこに日常の賑わいが生まれるのではないかという気がしました。この施設にホールを乗せることも、もう一回考えるべきではないかと思います。後々の私たちの末代の世代に、負の遺産を残すべきではないということを非常に思っています。
- 大里地区に区役所を、という発想をどこか捨てきれない気持ちです。門司港で商業施設も役所も集約して賑わいと人々の集まりの場に、また、万が一の時にも集

まるであろうスペースとするには狭いのではないかという感じがしています。大里と両方で考えていく必要があるのではと思います。

- 門司港地域は観光とか、人が賑わうための商業施設で勝負するような場所ではないかと思います。スペースの問題はありますが、今でも予約が取れない状態になると聞きました。施設があれば、色んな形で市民の方が利用し活用しているのではないのか、場所がないからそういう文化が育たないのかも、という考え方ができるのではと思います。
- 複合公共施設の規模について、市民会館、生涯学習センター、勤労青少年ホームの面積をあわせて8500㎡だったのを3600㎡にするという、この根拠と言いますか、いろんな精査をされてこのようになっていっていると思いますが、見た時には数値だけが目立ちます。区役所にどんな方がどれくらい利用されて、どれくらいの稼働率であるのか、市民会館とかの会議室の共用で縮減とあるが、はたして計算通りにいくのか、そこの数値的な部分を示して頂かないと、それらが結局建物のボリュームにかかってきます。数字の根拠が具体的に分からないと、なかなか現実的に捉えにくいのかなというのを思いました。
- 区役所は300㎡しか減っていないのですけど、港湾空港局の方は1500㎡減っています、港湾空港局も会議室の共用利用による縮減というのがありますが、利用の状況等をもう少し深掘りが必要ではないでしょうか。日曜日に利用できない施設があるようですが、利用できる施設の日曜日はどういう状況なのか、全体の稼働率が50%と50%だからこれは一緒にできる、といった単純な問題ではなく、この曜日はこの時間帯が集中しているとかですね、数字だけで語るのではなく、やはりそういうのをきちんと見ないといけないと思います。この建物のボリュームを、敷地の問題からは議論ができないのかと思います。

(事務局) 行動計画における複合公共施設の規模は、市民利用施設のホール部分を、門司市民会館の稼働率や利用状況から、可動式の500席規模の施設、多目的な利用を想定しています。また、会議室等として、生涯学習センターや勤労青少年ホームの稼働率を勘案した部屋数とし、利用調整や休館日の設定等による利用の平準化、稼働のピークを考慮した上で想定しました。区役所部分は、縮減が少ないとのご意見も出ましたが、現在の区役所は、バリアフリーが十分とれてない、相談窓口が廊下に面しているという課題があり、課題の解決も必要です。ここでは、戸畑区役所を参考に想定しています。

税務署跡地については、今の候補地よりも敷地もあまり広くなく、駐車場の確保も必要ですし、平坦な土地で棧橋通りに近い、駅に近い現候補地の2箇所で計画を考えていくことと考えております。

今回、公共施設マネジメントのモデル地区として、門司港地域及び大里地域を実施していますけれど、大原則は、今ある施設を、市民の皆さん

に、量の減少や、本当は日曜日にしたいけど空いている平日にしよう、大規模な催しは別の施設で行って頂く等、少し我慢して頂き、地域の文化祭等の地元でできるものの場として確保した方が、街の文化的な面もできてくるのではないかと考えています。そして、賑わいづくりを目的に複合公共施設を建てようとするのは本来の目的ではなく、現在、点在している施設を集約化し、ランニングコストの縮小、経費削減を目指している。それを考えた時に、立地条件が良い場所に集約した方が、賑わいに繋がるのではないだろうかと思っている所であり、賑わいづくりのために整備をするものではないという考えです。

- ピークに合わせるとコストが合わなくなります、だから我慢するのも少しさみしい。すこし工夫すると、申し込んだ時に予約が取れなかった側を調査されるべきだと思います。どういう集会で何人くらいでどういう目的ですか、といった情報を取る事は大事な事だと思います。オーバーフローした分がどの位あるのか、だったらどこを使えますよ、ということが検討できるのではないのでしょうか。すると利用者も満足して頂けて我慢しなくて良いとなります。稼働率という申し込んで使った人の数字ではなく、使えなかった人の数字を把握するというのが1つ必要だなと思います。
- 複合公共施設だけの稼働を考えるのではなく、レトロ地区の他施設を含めた、ソフト面のサービス、データを提供するサービスが抜けています。今は、それぞれの管理者にいちいち問い合わせないと分からない。そういう点を一元管理できるようなサービス、指定管理者であれば十分可能だと思いますが、市民サービスとして、このような面を充実すると相当に使い勝手の良さが上がってくると思います。市民の私たちもそういう姿勢でやっていかないといけないと思いますし、行政側もソフトの部分でどう解消できるのかということ、その面積とか規模に反映してやって頂けたらなと思います。
- 都市マネジメントとは、公共施設の物理的統廃合だけではなく、時系列で、統合のプロセスのマネジメント、よりよいサービスの提供方法に関するマネジメントも行うべきなのだと思います。面積の減イコール我慢という話は、市のタスクをそのまま我々に伝えているだけで、サービスを享受する側の市民からすると、統合によってサービス水準が維持されるかどうか。いつ、サービスの提供の在り方が変わるのかが伝えられることだと思います。つまり、集約する側の理論の説明と、利用する側の知りたいことが相互に一致していないのだと。簡単に言うと、市の側からすると「我慢して下さい」という話が出て、使う側からすると「使い勝手が悪い」というかみ合わない議論になっている面があると思います。面積が減ることが、同時に利用者の不便に直結しているわけではないにも関わらず。現段階でも施設はありますが、使い勝手が悪いという点は、使われ方のマネジメントを行うことによって、施設が減ったとしても利用者の満足度は上げられると思

います。このような点は、根本的に議論する必要があるのではないかと思います。

- 旧5市ごとにホールが必要かという議論に対しては、私もかつては必要ないのではないかと考えていました。ホール機能に特化した従来型のホールに関しては、確かに集約されるべきだと思いますが、機能が特化されない、防災・避難・簡単な発表や集会などの多目的に使える空間は、各拠点にあったほうが良いのではないかと思います。フルスペックのホールではなく、施設集約の目的も達成しながらも、利用者にとって使い勝手の良い、様々な目的に使える、稼働率の高い新たなスペックの多目的な空間をどのように作るか、ということも今後議論していく必要があると思います。

(事務局)市としまして、類似施設の空き情報を紹介できるような総合的なシステム開発を考えております。また、指定管理者制度により民間の方々に施設運営をやってもらっていますので、受付対応の中で、ソフト的な運営のやり方をしっかり学ばなければと思っています。

- 複合施設の規模等の話は、ホールが500席になると、その場合、代替えの場所はこういうところにある、会議室がこれだけ減るけど別施設がある、あるいは、可動型になることで今まで開けなかったイベントも可能になります、と見せ方もきちんと頂く必要があるのかと思います。門司区役所のバリアフリー化の課題は、やはり本来ならもっと必要なものであり、それをこれだけに減らします、というように丁寧な説明が無いとなかなか気付けないと思います。

(3)大里地域の検討状況及び今後の検討事項について

- 大里地域については、私も住みたいと思うほどの環境が整えられると思います。住む方にとって、良い居住環境が整うことが大里地域の発展と賑わいづくりになるのだろうと言う風に考えました。
- 分譲マンションだけでなく、賃貸マンションも入れてはいかがでしょうか。分譲マンションでは多数売れないからといって、小規模な計画となる可能性もありますので、賃貸との混在にすると良いと思います。また、戸建て住宅ですと、中に道路や上下水道・都市ガスを引いて側溝も作ると、区画割りをするために経費をかけてしまうので、マンションの方が、土地の売却単価としては高くなると思います。戸建て住宅は、どうしても分譲地としての商品に仕上げるために、経費がかかってしまうため、売却価格が下がってしまうと感じます。
- 公園ゾーンも含めて条件付きで販売してはいかがでしょうか。例えば、20年間は公園として購入企業から北九州市が定期借地として使用し、20年度に再検討するというものです。また、公園部分の整備は指定管理者さんに整備管理して頂くことも検討してはいかがでしょうか。工場立地法を活用し、大規模工場の飛び地の緑地として、この公園の指定管理者になってもらうとか、そういう可能性も考

えてはいかがかと思いました。

- 北九州市内を見ると、同じようなチームが同じような駆け引きをやって、同じような開発が行われている地区が見受けられます。事業手法がどんなものなのか、今まで北九州でやったことのないような事業者が出てくれるといいなと思います。
- 私は、非常に素晴らしいポテンシャルの高い土地だと思います。事業者ヒアリングでもそのような回答が出ていますので、北九州に無いような住宅地が、公園ができたね、というようなことになってほしいなと思います。
- 北九州市の場合は住み替えが多いとありますが、それでは困ると思います。北九州市に帰ってくるための1つの大きなファクターになるゾーンを作って頂き、UターンやUターン、CCRCというような構想との連携で「帰るのだったら大里のあそこに住みたい」という魅力ある地域となる可能性が十分にあると思います。その点からも、最初から公園とか緑地とかと一体となった開発を計画してもらいたいと思っています。建築の設計する際、公園は公園、道路は道路、建物は建物というやり方では、最終的に100であるべきものが80でしかできなかつたりします。最初から総合的にやると、相当良いものができるのではないかと、一体になった開発という視点で進めて頂けたらと思います。
- いろいろな素晴らしい条件がある立地だと思います。よくよく煮詰めた論議を行うことで、本当に失敗をしない、後悔をしないまちづくりを、せっかくの土地を無駄にしないで頂きたいという思いです。
- 私の周りの話ですが、10代・20代で大里地区に住む人達に、どんなものが欲しいか聞いたら、広い規模のドックラン、ゆったり犬を遊ばせる場所がほしい。それと、UNIQLOが来てほしい等といった意見がありました。若者はスポーツをして着替えたりするだろうし、お父さんお母さん、おじいちゃんおばあちゃんの衣類の購入もできるから、そのような店舗できたら良いということでした。これからも、色々な具体的で有効な意見が出てくることは期待しております。
- 大里地区は、本当に交通の便や生活環境が大変良く、治安も良いところです。新しいエリアは、環境を崩さないようなイメージの良い施設となるようお願いしたい。門司区は人口が減っていますが、大里地区は門司駅の北口の再開発で、若い人達がかかり増えています。こうしたところを見ますと、せっかく整備するのであれば、思い切ってよそにない特徴のある街づくりをやっていけたらなと思います。それから、最近では保育所の建設に反対するなどの人が増えていますが、保育所等も広い土地の中に作って頂ければ、居住者にも良いと思います。
- 大里出張所の移転は、近々行われるのでしょうか。
(事務局)大里出張所は、門司駅周辺の方に移転した方が良いとは考えております。
しかし、現施設が使用できる状態ですし、望ましい場所が出てくるかを見極めながら判断することになります。

- このエリアは本当に広い面積ですので、ここでなくてはできないことがあるのではないのでしょうか。それは、ここでなくてもできることを削ぎ落としていくことが必要だと思います。例えば、高齢者の健康づくりでは、高齢者の生活行動は半径500メートルの範囲でほぼ成立しているわけで、日常の健康維持のために利用するのは近くの方となる。遠くの方はここには来ないのではないのでしょうか。むしろ先に周辺地域に、その範囲で運動の場を別におかないといけないと思います。安全にちゃんと歩ける環境はあるのか、散歩するってことは犬の散歩のことだったりしますが、安心してできる環境が他の公園にはあるのか、ちゃんとトイレはきれいなのか、そのような前提があって、それを各地域で解決することによって、ここに求められるものが変わってくると思います。また、公立学校の施設開放制度があるのは知っていますが、指導者登録が必要とのことでした。私の子供の頃のように、放課後に子どもが残って日が暮れるまで野球していたのが当たり前だったのとは違うみたいです。開放するという制度はあるけど、実際に利用されているか、団体を作った人は良いのでしょうか、小中学生が自分で野球やサッカーがしたいって時にできる場所があるのか。そういう話がきちんと片付くと、ここに求められるものを考えた時、非常に話がすっきりするのではないかと思います。
- 私も子育ての終わりぐらいですが、子どもが小さかったころ一番嬉しかったのは、響灘緑地でした。広く開放されて、ある程度の好きな事ができる。ボール遊びをしても、硬球とかでなければ怒られない。あのような環境というのは一番嬉しかったと思います。この大里地域はそれに非常に近い事が可能な場所なのかなと思います。
- ランニングやウォーキングで開放することは、高齢の方が家の近所でなく、もうちょっとレベルアップをした運動強化をしたいといった時に、このぐらいの面積がないとできないのでしょうか。皇居の周りを歩くのは、信号がないからずっと歩けるのです。そのような場所はなかなか無いので、そういうのがあれば嬉しいかなと思います。そうすると、例えばそこに更衣室があるだろうし、シャワーもいるだろう、プールを整備するのなら外部の人がそのような利用の仕方でもできる、更衣室・シャワーをセットする、そう考えるとすごく利用価値が上がってくるのではないかと思います。そのような全体との位置づけの中で、役割を決めて頂ければと思います。
- 外国の公園に行くと、バーベキューのテーブルがあって、食材は自分で持って行くのですが、管理者がいて、1時間幾らといった形で、お金を払うとあとの炭の処理までしてくれる所がありました。北九州市の公園の殆どは、たき火禁止、バーベキュー禁止と書いてあるだけで、では、どこですればいいんですかということについては何の解決もありません。バーベキューができる切欠となる施設があったらいいと思います。また、そういうサービスは、高齢者の雇用とかにも結

- びつくのではないかと思います。そういった形で単に運動をすとか公園機能だけではなく、新たな雇用とか、もっと違う新しいものがないかなと思います。
- 門司競輪場の跡地について、保育所ができる予定はないのでしょうか。新聞に北九州市は11年度以降、保育所の待機児童が0とありましたが、現実に私個人の意見としては、私の娘も1歳半の子供を抱えているんですけど、保育所の予約が取れない、待機児童になって、当然職場復帰もできていません。第1希望の保育所が入れないと、位置的に送り迎えに相当不便性を感じ、時間も取られることになるようです。第1希望に素直に入れる、そういう条件を整えるためにもこのような立地条件のいいところに保育所ができればもっと素晴らしいんじゃないかなと思います。
 - 待機児童の話は、要は何が足りないかというと時間と場所の問題ですね。数としては少ないですが、この時間帯であれば預けたい、この場所にあれば預けたいという事で、門司港駅の近くはなり得る場所ですし、時間的にも例えば4時まで見てくれればぜひ預けたいという方が間違いなくいると思います。そういうところに展開することが大切だと思います。
 - 保育所の件について、門司港で整備される複合公共施設は、駅に近く、とても便利で良い場所だと思う。働く女性は、このような場所に保育所ができれば、すごく喜ばれるのではないのでしょうか。
 - 競輪場の跡地に人が集まるということを目指すなら、マンションだと多くの人が集まることになると思います。門司では、駅の北側でもマンションが建ちましたが、すぐに売れているようです。しかし、販売状況からはまとまった数の売却が難しいということでしたら、マンションと一戸建ての両方を建てる方法が良いのかなと思います。公園もこのぐらい整備されたら、災害が起きた時にも集まることのできるのではと思います。
 - 民間活用で市民が享受できる利益は、売却代金として一次的に得られるものと、その民間施設が地域にサービスを提供することにより、長年に得られるものがあると思います。一時的な売却益は、その時、市にお金が入るから良いのですが、本当にそれで良いのかどうか検討する必要があると思います。先程の保育園の話にも関係しますが、継続的に市民が価値を享受できる事業者に土地を売却する案も、平行して考える必要があるのではないのでしょうか。例えば、福祉施設とかを優先するというのもあり得ると思います。
 - 公園自体の運営を指定管理者が行うという方法もあるかなと思います。そうすることによって、バーベキューができる可能性もありますし、場合によっては若い世代の積極的な利用も見込める、グランピングもできるかもしれません。
 - 公園自体を民間委託化や開発の手法について、そのやり方も含めて考えていくべきじゃないのかなと思います。新しい事業者というか、今までにない事業を展開していく為の事業手法を考えて頂ければと思いました。行政にはできないけれど、

思い切ってやれる事が出てくるのではないのでしょうか、そのような事も含めて今後検討して頂ければと思います。

- 八幡東区の東田地区では、環境に配慮した様々な取り組みをしていますし、七条付近の開発エリアは「ビバリーヒルズ」と言われました。大里地域でも、価値を高めるには、この地区に行きたいと思うそういう何かアイデアがあるのかなという気がしました。付加価値を付けた、例えば環境や自然に良い取り組み等、大里地区に魅力を感じるプロジェクトを考えて頂ければと思います。
- 七条の事業には、内井先生という建築家が最初から関わっており、ランドスケープから山並みから突出した建物が建たないようとか、色々な事を考えて整備されたと聞いています。若松の方には、宮脇さんという方が、最初の地区計画から考えられて住宅地を作られてます。最初にどういう風景として、どういうものを作るのかは「公園と一体となる」という点につながると思います。是非、そういう考え方から入って頂けるような事業者、あるいはキーパーソンを選んで頂いて、大里の地域づくりをやったら素晴らしいものになるのかなと思います。

7 その他

傍聴者 6名

8 問い合わせ先

企画調整局都市マネジメント政策部都市マネジメント政策課

モデルプロジェクト担当

電話番号 093-582-2076